

第54回日本社会学会大会

第54回日本社会学会（会長・中野卓）大会は、昭和56年10月10日（土）と11日（日）の2日間にわたって東京三田の慶応義塾大学で開催された。10日から11日午前にかけて51の部会で165の一般研究報告が行われた。11日午後には4つのテーマ部会が開かれると同時に、特別部会として第3回アジア社会学会議の開会式・公開セッションが開かれた。

10日午後の人口部会では皆川勇一教授（千葉大学）の司会のもとに以下の4報告がなされた。

人口政策の展開とその展望……………日本大学 黒田 俊夫
コウホート規模と婚姻……………人口問題研究所 小島 宏
結婚様式とその変動……………中村学園大学 山本 文夫
家族形成過程の日米比較
——コンポウネンツ・アナリシスによる計画外出生の分析——……………人口問題研究所 阿藤 誠

また、10日午前の家族部会Iにおいても次のような歴史人口学的研究の報告があった。

近世東北地方農民家族の世代的再生産と人口の構造
——「宗門人数改帳」をもちいた事例研究——……………立命館大学 高木 正朗

なお、本年の人口部会には家族社会学者をはじめとする人口以外の専門家が多数来場したため、参加者が例年の数倍に達して活発な討論が行われた。（小島宏記）

日本老年社会科学会第23回大会

日本老年社会科学会（会長：那須宗一中央大学教授）の第23回大会（会長：黒田俊夫日本大学嘱託教授）が、昭和56年10月15日（木）～17日（土）の3日間にわたり、東京都千代田区平河町の全共連ビルにおいて開催された。今回の大会は、日本大学人口研究所が中心となって運営されたが、その努力によって盛大な大会日程を終了した。

同研究所顧問でもある黒田俊夫教授が大会会長をつとめられたが、第1日めの会員総会の後に、会長講演「高齢化人口学」を行なった。その後に行なわれた本年度のシンポジウムは、「2001年における老年学と福祉」と題するもので（司会：黒田俊夫・中川晶輝）、その報告としては、1. 経済成長と社会保障——年金・雇用・定年（日大・小川直宏）、2. 日本型高齢化社会における生活設計と家族政策（那須宗一）、3. 心の問題への対応（日大・長島紀一）、4. 要介護老人のためのサービスの水準と費用（都老総研・前田大作）が行なわれ、これらの報告をめぐって活発な討論がくりひろげられた。

今回は東京での開催ということもあって、本研究所からも多数の会員が参加したが、そのうち、中野英子技官が「生活構造からみた女子の老後の生活観」（第1日）、内野澄子技官が「老人の家族形態別にみた生活状況」（第2日）と題して、それぞれ一般報告の部会で研究発表を行なった。その他の報告のなかで人口に関連あるものとして、「江戸末期における農村老人の人口比と世帯構成」（お茶大・湯沢雅彦）があった。

なお、本年は日本老年医学会と隔年で共催する日本老年学会の第12回大会（会長：大島研三日本大学教授）も同時並行で開催されたが（会場は日本都市センター）、そこでのシンポジウムとして、「寿命決定因子」および「高齢社会における老人のあり方——すこやかに老いるために——」の2題が行なわれた。（山口喜一記）

日本統計学会創立50周年記念国際円卓会議

日本統計学会は昭和56年に創立50周年を迎え、それを記念して特別講演会、記念討論会が7月13～15日関西大学における大会プログラムに組み入れられるなど、多彩な事業をとり行なった。それらの事業の一つとして、10